

特別企画：2017年度 北海道内スーパーストア売上高ランキング**コープさっぽろが首位を堅持**

～上位50社の売上高合計は1兆1900億8700万円、前年度比0.5%増～
はじめに

道内のスーパーストア業界は、消費人口の伸び悩みが続くなかで、顧客獲得競争は一段と厳しさを増している。この間、大手業者は合併も含めた経営統合や再編を進めることでスケールメリットを追求するほか、商品ライン、アイテムの充実に加えて在庫統制の徹底や、新規出店や同業者からの店舗の承継、リニューアルなどにより営業基盤の維持・拡大を図っている。大手による系列化や寡占化が進む一方で、中小・零細規模のスーパー経営業者を取り巻く経営環境は厳しさが続いている。

帝国データバンク札幌支店は、企業概要ファイル「COSMOS2」（登録社数147万社）を対象に、2017年度（2017年4月期～2018年3月期）に決算を迎えた道内企業（約7万社）から、スーパーストア経営業者を抽出、売上高ランキング（不動産賃貸収入等を含む）を作成した。なお、売上高は推定値を含む。

～調査対象～

1. 原則として生鮮3品を扱い、セルフサービス方式を採用する法人
2. 北海道内に本社を置きスーパーストアを展開する法人
3. 北海道内に本社を置き店舗展開する生活協同組合（大学生協を除く）
4. 売上高は不動産賃貸収入等を含み、店舗数は上記の対象店舗とする

調査結果（要旨）

1. 2017年度のランキング第1位は、売上高2928億7800万円の（生協）コープさっぽろ。2位はイオン北海道、3位はラルズで前年度と変わらず、一部ランキングに変動があったものの、上位10位までの顔ぶれは前年度と変わりなかった。
2. グループ別売上高では、イオングループが店舗数163、売上高合計3312億4900万円で3年連続して第1位に。第2位はアークスグループ、第3位は（生協）コープさっぽろ及び業務提携する（有）魚長のグループ。
3. 上位50社の売上高合計は前年度比0.5%増の1兆1900億8700万円。上位10社の売上高合計は1兆331億9200万円で前年度比0.7%増。上位50社の増収企業（横ばい含む）は23社、減収企業は27社。

1. 売上高ランキング ～ 第1位はコープさっぽろ、2位はイオン北海道

ランキング第1位は（生協）コープさっぽろで、売上高は2928億7800万円（前期比1.5%増）を計上、ランキング対象とした2007年度から11年連続での首位となった。第2位は売上高2052億9900万円のイオン北海道（株）。同社は、2015年9月に（株）ダイエーの北海道地区の総合スーパー9店舗を承継している。3位はアークスグループの中核、（株）ラルズで売上高1279億7300万円。4位のマックスバリュ北海道（株）は、前期比2.2%増の売上高1259億5000万円を計上した。2015年9月に（株）ダイエーの北海道地区の食品スーパー7店舗、10月に（株）いちまるのスーパーストア14店舗を承継している。

（株）ホクレン商事は前期比1.9%減の651億8700万円の売上高で5位にランキングされた。

一部ランキングに変動があったものの、1位から10位までの顔ぶれは前年度と変わりなかった。

2017年度 北海道内スーパーストア売上高ランキング

(金額単位:百万円)

順位	前年 順位	法人名	所在地	店舗名	店舗数 (決算時)	決算期 (月)	2017年度 売上高	2016年度 売上高	伸び率 (%)
1	1	(生協)コープさっぽろ	札幌市	コープさっぽろ	108	3	292,878	288,432	1.5
2	2	イオン北海道(株)	札幌市	イオンほか	74	2	205,299	203,173	1.0
3	3	(株)ラルズ	札幌市	スーパーアークスほか	72	2	127,973	127,025	0.7
4	4	マックスバリュ北海道(株)	札幌市	マックスバリュほか	89	2	125,950	123,203	2.2
5	5	(株)ホクレン商事	札幌市	ホクレンショップ ほか	65	3	65,187	66,427	▲1.9
6	6	(株)東光ストア	札幌市	東光ストア ほか	28	2	45,465	46,924	▲3.1
7	7	(株)道北アークス	旭川市	スーパーチェーンふじ ほか	43	2	44,732	46,291	▲3.4
8	9	(株)福原	帯広市	フクハラ ほか	43	2	43,211	43,353	▲0.3
9	8	北雄ラッキー(株)	札幌市	ラッキーほか	34	2	42,907	44,252	▲3.0
10	10	(株)ダイイチ	帯広市	ダイイチ	22	9	39,590	36,673	8.0
11	11	(株)道南ラルズ	北斗市	ラルズマート ほか	17	2	24,315	24,297	0.1
12	12	(株)道東アークス	北見市	ラルズマート ほか	14	2	20,232	20,013	1.1
13	13	(株)北海道ジェイ・アール・フレッシュネス・リテール	札幌市	JR生鮮市場	9	3	18,042	18,264	▲1.2
14	14	(株)豊月	苫小牧市	フードD	13	1	15,609	16,388	▲4.8
15	15	(有)魚長	函館市	生鮮夢市場 ほか	20	2	11,688	11,829	▲1.2
16	16	(株)津司	札幌市	卸売スーパー	8	4	11,000	11,000	0.0
17	17	(株)東武	中標津町	東武サウスヒルズ ほか	2	1	5,800	5,900	▲1.7
18	18	(株)ダイゼン	鷹栖町	DZマート	15	9	4,634	4,308	7.6
19	19	(株)モリワキ	札幌市	北海市場	6	12	4,213	4,297	▲2.0
20	21	(株)ハピオ	音更町	ハピオ	1	3	3,789	3,699	2.4

※1 イオン北海道(株)は2015年9月より(株)ダイエーの北海道地区の総合スーパー9店舗を承継

※2 マックスバリュ北海道(株)は2015年9月より(株)ダイエーの北海道地区の食品スーパー7店舗を承継
また同年10月1日付で(株)いちまるよりスーパーストア14店舗を承継

※3 (株)ダイイチは2016年10月1日付で(株)オーケー(音更町)を吸収合併

※4 (株)道東ラルズは2016年3月に(株)篠原商店を合併、(株)道東ラルズは(株)道東アークスに商号を変更。

2. グループ別売上高 ～イオングループが3312億4900万円で3年連続してトップに

グループ別売上高では、イオン北海道（株）とマックスバリュ北海道（株）のイオングループの2社が、店舗数163、売上高合計は前期比1.5%増の3312億4900万円で3年連続してトップとなった。イオン北海道（株）は、前々年度の2015年9月より（株）ダイエーの北海道地区の総合スーパー9店舗を承継、またマックスバリュ北海道（株）は、同じく2015年9月より（株）ダイエーの食品スーパー7店舗、同年10月より（株）いちまるのスーパーストア14店舗をそれぞれ承継している。アークスグループ（道内本社6社）は店舗数217、売上高合計は前期比0.6%減の3059億2800万円で第2位となった。

（生協）コープさっぽろ及び業務提携先の（有）魚長（函館市）のグループは、店舗数128、売上高合計は同1.4%増の3045億6600万円で第3位となった。

2017年度（2017年4月～2018年3月）大手3強の売上高

●イオングループ売上高

（単位：百万円）

企業名	店舗数	2016年度	2017年度	伸び率 (%)
イオン北海道(株)※1	74	203,173	205,299	1.0
マックスバリュ北海道(株)※2	89	123,203	125,950	2.2
合 計	163	326,376	331,249	1.5

※1 イオン北海道（株）は2015年9月より（株）ダイエーの北海道地区の総合スーパー9店舗を承継

※2 マックスバリュ北海道（株）は2015年9月より（株）ダイエーの食品スーパー7店舗を承継。

また同年10月より（株）いちまるのスーパーストア14店舗を承継

●アークスグループ売上高

（単位：百万円）

企業名	店舗数	2016年度	2017年度	伸び率 (%)
(株)ラルズ	72	127,025	127,973	0.7
(株)東光ストア	28	46,924	45,465	▲ 3.1
(株)福原	43	43,353	43,211	▲ 0.3
(株)道北アークス	43	46,291	44,732	▲ 3.4
(株)道南ラルズ	17	24,297	24,315	0.1
(株)道東アークス※1	14	20,013	20,232	1.1
合 計	217	307,903	305,928	▲ 0.6

※1: (株)道東ラルズは2016年3月に(株)篠原商店を合併、(株)道東ラルズは(株)道東アークスに商号を変更

●（生協）コープさっぽろ及び業務提携先売上高

（単位：百万円）

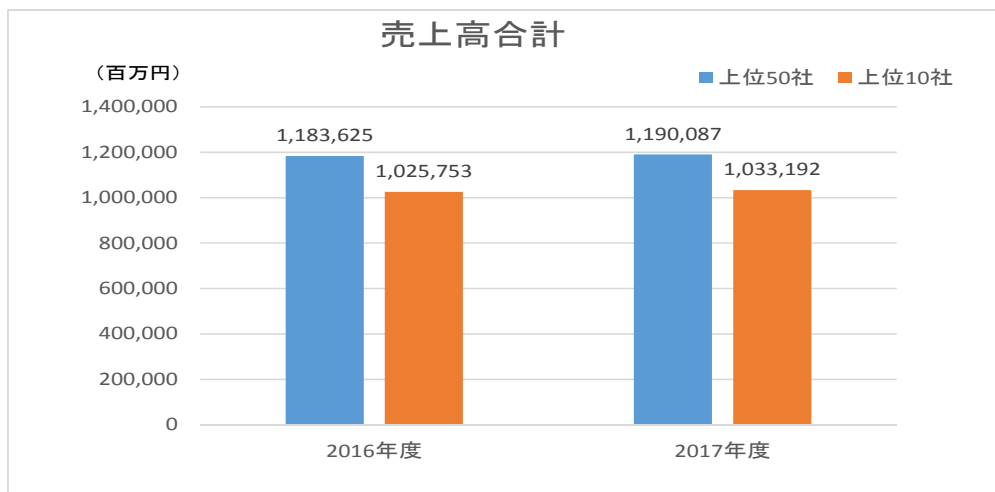
企業名	店舗数	2016年度	2017年度	伸び率 (%)
(生協)コープさっぽろ	108	288,432	292,878	1.5
(有)魚長	20	11,829	11,688	▲ 1.2
合 計	128	300,261	304,566	1.4

3. 上位50社売上高合計 ～1兆1900億8700万円で前年度比0.5%増

売上高ランキング上位50社の売上高合計は、1兆1900億8700万円で前年度比0.5%増加した。

上位10社の売上高合計は、50社合計の86.8%を占める1兆331億9200万円で、2016年度の上位10社の売上高合計1兆257億5300万円に比べ0.7%増加。

上位50社に占め



る10社の売上高合計の構成比は86.7%から86.8%へと0.1ポイント上昇した。

売上高が前年度比増収（横ばい含む）の企業は50社中23社、減収企業は27社となり、減収企業の数の上回った。

4. トップ10企業の動向

スーパーストア売上高ランキング推移(2008年度～2017年度)

順位	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
1	(生協)コープさっぽろ	(生協)コープさっぽろ	(生協)コープさっぽろ	(生協)コープさっぽろ	(生協)コープさっぽろ	(生協)コープさっぽろ	(生協)コープさっぽろ	(生協)コープさっぽろ	(生協)コープさっぽろ	(生協)コープさっぽろ
2	イオン北海道(株)	イオン北海道(株)	イオン北海道(株)	イオン北海道(株)	イオン北海道(株)	イオン北海道(株)	イオン北海道(株)	イオン北海道(株)	イオン北海道(株)	イオン北海道(株)
3	(株)ラルズ	(株)ラルズ	(株)ラルズ	(株)ラルズ	(株)ラルズ	(株)ラルズ	(株)ラルズ	(株)ラルズ	(株)ラルズ	(株)ラルズ
4	マックスバリュ北海道(株)	マックスバリュ北海道(株)	マックスバリュ北海道(株)	マックスバリュ北海道(株)	マックスバリュ北海道(株)	マックスバリュ北海道(株)	マックスバリュ北海道(株)	マックスバリュ北海道(株)	マックスバリュ北海道(株)	マックスバリュ北海道(株)
5	(株)ホクレン商事	(株)ホクレン商事	(株)ホクレン商事	(株)ホクレン商事	(株)ホクレン商事	(株)ホクレン商事	(株)ホクレン商事	(株)ホクレン商事	(株)ホクレン商事	(株)ホクレン商事
6	(株)札幌東急ストア	(株)東光ストア	(株)福原	(株)東光ストア	北海道北アークス	北海道北アークス	北海道北アークス	(株)東光ストア	(株)東光ストア	(株)東光ストア
7	北雄ラッキー(株)	北雄ラッキー(株)	(株)東光ストア	(株)福原	(株)東光ストア	(株)東光ストア	(株)東光ストア	北海道北アークス	北海道北アークス	北海道北アークス
8	(株)福原	(株)福原	北雄ラッキー(株)	北雄ラッキー(株)	(株)福原	(株)福原	(株)福原	北雄ラッキー(株)	北雄ラッキー(株)	(株)福原
9	(株)ふじ	(株)ふじ	(株)ふじ	(株)ふじ	北雄ラッキー(株)	北雄ラッキー(株)	北雄ラッキー(株)	(株)福原	(株)福原	北雄ラッキー(株)
10	(株)ダイイチ	(株)ダイイチ	(株)ダイイチ	(株)ダイイチ	(株)ダイイチ	(株)ダイイチ	(株)ダイイチ	(株)ダイイチ	(株)ダイイチ	(株)ダイイチ

[注1] (生協)コープさっぽろは2007年度からランキング対象

[注2] (株)札幌東急ストアは2009年11月に(株)東光ストアへ商号変更

[注3] (株)ふじは2012年7月に(株)北海道北アークスと合併し、(株)北海道北アークスへ商号変更

[注4] イオン北海道(株)は2015年9月より(株)ダイエーの北海道地区の総合スーパー9店舗を承継

[注5] マックスバリュ北海道(株)は2015年9月より(株)ダイエーの北海道地区の食品スーパー7店舗を承継

また同年10月1日付で(株)いちまるよりスーパーストア14店舗を承継

[注6] (株)ダイイチは2016年10月1日付で(株)オーケー(音更町)を吸収合併

（生協）コープさっぽろは、供給事業の主力である店舗事業は、改装や移転新築といったテコ入れを実施したものの、店舗数の純増はなく既存店での営業展開を図ったが、同業者間の顧客獲得競争もあって前期比 0.7%増にとどまった。宅配事業は前期に実施した 3 歳未満の子供がいる世帯と 65 歳以上の高齢者がいる世帯の手数料無料化で利用世帯の裾野を広げたことなどから前期比 5.3%増となった。供給事業に共済・保険事業などを併せた総売上高は前期比 1.5%増の 2928 億 7800 万円を計上した。

イオン北海道（株）は、食品部門では、「イオン北海道誕生 10 周年祭」などセールス・イベントを実施し、鮮度を追求した商品構成や年間を通じたフェアを開催することで顧客獲得に注力した。青果、果実、鮮魚の価格は上昇したが、幅広い商品を提供し、グロスアリー、デイリー、生鮮、デリカともに増収となった。売上高は前期比 1.0%増の 2052 億 9900 万円を計上した。

（株）ラルズは、顧客の生活防衛意識に対応した「スーパープライス」などの販売促進企画を継続、また期中に既存店舗の一部で業態変更による集客増を図った。こうしたなか、鮮魚、青果、精肉など生鮮 3 品の動きは順調に推移した。アークス RARA カードの会員増など、新規客も増加したことから売上高は前期比 0.7%増の 1279 億 7300 万円を計上した。

マックスバリュ北海道（株）は、商圈シェア拡大に取り組み、2017 年 7 月に「マックスバリュ北 40 条店」、10 月に「マックスバリュ新発寒店」、11 月に「ザ・ビッグ緑が丘店」の新規出店と老朽化した設備の入れ替え、商圈特性に合わせた 9 店舗の大型改装を実施した。消費者の節約・低価格志向に対応し、購買頻度の高い商品の価格訴求を行い、販売強化を図った。売上高は前期比 2.2%増の 1259 億 5000 万円を計上した。

（株）ホクレン商事は、期中に「ホクレンショップ稚内店」「ホクレンショップ豊岡店」「エーコープ北竜店」を閉店、「エーコープ新すながわ店」「エーコープこしみず店」を開店、新店舗では新規顧客の取り込みに注力した。売上高は前期比 1.9%減の 651 億 8700 万円となった。

（株）東光ストアは、期中に「福井店」を閉鎖したものの、「平和店」「麻生店」「西線 6 条店」を改装し、集客増を図った。割引セールやキャンペーンの実施のほか、アークスグループの PB ブランドの CGC 商品の取り扱いにも注力したものの、主力であるスーパーストア部門の売り上げ減少の影響から売上高は前期比 3.1%減の 454 億 6500 万円となった。

（株）道北アークスは、前期に開店した「ベストプライス東旭川店」が通年稼働となったほか、期中に「Da*マルシェ沼田店」を出店させた一方で、「ラルズマートマルカツ店」を閉店させたため新規出店による増収効果は薄く、管内人口の減少による購買力の低下もあって売上高は前期比 3.4%減の 447 億 3200 万円となった。

（株）福原は、期中の店舗リニューアルを「愛国店」のみにとどめたため、改装期間の休店を強いられることなく全店ともに稼働日が増加したものの、前期までのようなリニューアルによる集客効果は少なく来店客数は伸び悩みを見せた。売上高は前期比 0.3%減の 432 億 1100 万円となった。

北雄ラッキー（株）は、期中に「LUCKY 清田店」「CITY 美幌店」を改装したほか、「LUCKY 西野 2 号店」を「ラッキーマート西野店」として新装開店した。7 月前半の記録的な高温により夏物衣料やアイス・飲料水などの涼味関係商品は好調であったものの、野菜・果物の相場低迷で青果部門が影響を受けたほか、北海道近海の不漁により水産部門も伸びを欠いた。売上高は前期比 3.0%減の 429 億 700 万円となった。

（株）ダイイチは、前期に実施した「白石神社前店」のリニューアルと「二条通店」の増床効果で来店客数が伸びたほか、期中の「八軒店」「札内店」のリニューアル効果に加えて、前期に導入した電子マネー機能付きポイントカード「フレカプラス」が好評で契約数を増やし、来店客数の増加につながった。また、2016 年 10 月に連結子会社の（株）オーケーを吸収合併したこともあり、売上高は前期比 8.0%増の 395 億 9000 万円を計上した。

【内容に関する問い合わせ先】

株式会社帝国データバンク 札幌支店情報部 担当:柳澤、篠塚、香川

TEL 011-272-3933 FAX 011-272-3934

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。報道目的以外の利用につきましては、著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。